

■鳥居清長 浮世絵師。明るく闊達な独自の様式を確立、美人画最高峰とされるものの、寛政の改革で、芝居絵に退避。

とりいきよなが

・ ・ ・ ・ ・ 1752＝ 江戸本材木町一丁目の本屋{白子屋}關市兵衛の子に生まれる。幼名新助。

生地は浦賀でまもなく江戸に移つたらしい。

大岡忠光没・1760＝ 8歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1761＝ 9歳：

早くから観劇を好み、

意次側用人・1767＝15歳：この年の歌舞伎興行での役者絵が現存する初作。

・ ・ ・ ・ ・ 1770＝18歳：この年から役者絵を連続して描くようになり、

御蔭参流行・1771＝19歳：最初の芝居絵本番附出版。

田沼意次老中・1772＝20歳：この頃、後継ぎとなる子を失い失望状態にあった鳥居家3代目初世清満の門人となり、

清満風の役者絵や鈴木春信風の美人画から始まり、

解体新書・・1774＝22歳；署名の書風が変わる。

黄表紙始・・1775＝23歳：最初の細絵美人版画出版。黄表紙の挿絵を描き始め、

雨月物語刊・1776＝24歳：最初の小判錦絵「婚礼十二式」を出版。この年に結婚したらしく、

・ ・ ・ ・ ・ 1777＝25歳：一人息子清政が誕生。重政の画風の模倣を始め、磯田湖竜斎に感化されて美人画も大きく変化、

江戸船蝦夷来・1778＝26歳：最初の柱絵と短冊揃物出版。この頃には師の手法に飽き足らず、著しく進境。

源内獄中死・1779＝27歳：*最も有力な版元西村屋與八の後援を受けるようになって、様々な手法を摂取しながら、次々制作、

・ ・ ・ ・ ・ 1780＝28歳：大判美人版画を始めて出版し、中判役者揃物(黒の背景)を出版。美人画もさらに革新し、

・ ・ ・ ・ ・ 1781＝29歳：肉筆「隅田河畔納涼」。***西村屋の湖竜斎の大判揃物を描き継いで、最初の大判美人揃物「當世遊里美人合」と**

間判「役者の私生治」の出版始め、最初の芝居絵本番附も描く。「箱根七湯名所」から独自の画風を確立、

天明大飢饉始1782＝30歳：この頃、鳥居家の継嗣問題が起こると、弟子仲間と争うのを避けるためか、劇場付きとなって本姓の關氏

蘭学階梯・・1783＝31歳：あらゆる階級の女の大判揃物「風俗東之錦」。肉筆「海邊楼上遊宴」大判、中判、柱絵など最も多く描く。

意知刺殺事件1784＝32歳：(桐座)復興の辻番付を師から任せられ鳥居清長と署名。最初の大判三枚続き「四條河原夕涼み」を発行し、

肉筆画にも傑作「柳下納涼図」「観梅二美人」、

蝦夷初調査・1785＝33歳：絵本物見図。肉筆「化粧と浴後」「待乳山の納涼」。師清満が死去、周囲からは後継者と看做されるも、こ

の年清満の孫清峰が誕生したこともあって、引続き劇場付きとなり、出語舞台絵を続け、

田沼意次失脚1786＝34歳：絵本五葉松」。肉筆「三人上戸」。美人絵の力作「女湯」、「三圍の驟雨」を出し、以後二・三枚続を得意に。

寛政改革始・1787＝35歳：「彩色美津朝」。この頃には***絶頂に達し、代表作とされる「当世遊里美人合」「風俗東之錦」「美南見十二候」の**

三大揃物などを制作、自らも完成の域に達したと感じたのか、ようやく、師家の4代目を継ぐが、

・ ・ ・ ・ ・ 1788＝36歳：「洗濯日」「小夜曲」「曾我神社祭礼」。***大判揃物の最後となる「十体画風俗」を制作後、寛政の改革による抑圧**

を避けるように、以後、家業の劇場付きとして芝居の看板絵や番付絵などに比重を移して行き、

勝川春潮、窪俊満ら他派の画家にも濃厚な影響を及ぼし、

初の横綱・・1789＝37歳：大判三枚続の「江の島詣で」「旗本邸の新年」。二枚続の「遊女屋雪の朝」。肉筆「琴と歌」。

異学の禁・・1790＝38歳：大判三枚続「はなやかな廓の集ひ」。「女風俗十寸鏡」。多作になるとともに、美人型と彩色法を変える。

混浴禁止・・1791＝39歳：肉筆で「朝比奈と美女の首引」を扇に描く。

ラスマン来日・1792＝40歳：一枚摺としては最大の「新年の越後屋」。大判五枚続の「墨堤花見の図」。「隅田川夕べの合奏」「日本橋を渡る

女」「花扇の到来」「隅田河畔のみそぎ」。長男清政に下絵をさせるうち、

松平定信引退1793＝41歳：最後の**大判芝居版画発行。「清流夕涼み」を描く。この頃には、清政の腕は相当なものになる一方、弟子入り**

してきた師清満の孫清峰の才能が欠けるも、その扶養が義務とばかり、

「十体画風俗」(最後の大判美人揃物)「美名見新庭袖か岡春景」(最後の大判三枚続)発行。清峰に

絵の手ほどきを始め、清政には将来浮世絵師として立つ希望を放擲させる。

写楽・・・・1795＝43歳：「子宝五節遊」(最後の揃物)発行。この頃、「櫻の木辺の遊女と禿」を描く。

昌平饗始・・1797＝45歳：この年の「御江都飢餓」に“鳥居の飛狐”名で、「美満壽組入」に“鳥居増太郎”名で、狂歌一首ずつ収録、

古事記伝・・1798＝46歳：「兒訓影絵諭」(山東京伝著黄表紙)に挿絵を描く。

蝦夷地直轄始1799＝47歳：王子権現の絵馬に所作「達弓色引方」の一場面を描く

伊能測量始・1800＝48歳：この年王子権現に奉納した額の世話人名に市兵衛とあり、すでに父の跡を継いでいたらしい。「團十郎七世

嫡孫」に「暫」の挿絵を入れ、鳥居清長と署名した川柳を入れる。

本居宣長没・1801＝49歳：「子宝五節遊」の第二揃物発行。肉筆別の「暫」を描く。

いざノ来航・1804＝52歳：中村座上演の「猿若」及び他の「猿若」「門松」の摺物を描く。

いざノ報復・1806＝54歳：「艾売りに扮する二代目團十郎」の摺物を描く。肉筆の「暫」「酔歩の女と階上の土人」を描く。

江戸船狼藉・1807＝55歳：川柳一句収録。「追善珠数親玉」に「暫」を描き、それに鳥居清長の署名で悔みの俳句を入れる。

フェート号事件・1808＝56歳：森田座上演の「翁」の摺物、市村座上演五代目岩井半四郎所演の所作の摺物を描く。

・ ・ ・ ・ ・ 1810＝58歳：目黒成就院の絵馬「矢の根五郎」を描く。

ゴロブニ拿捕1811＝59歳：「江戸紫鼻負鉢巻」に「助六」の挿絵を描き、それに川柳を入れる。扇に肉筆「曾我兄弟の夜討」を描く。清峰が

清信の絵による「つはものに扮する團十郎」(大判)発行。

浮世床・・・1813＝61歳：森田座上演「佛舍利」の摺物を描く。最後の大判「金太郎」発行。

黒住教・・・1814＝62歳：石神井長命寺の絵馬「双蝶々、濡髪と放駒」を描く。扇に肉筆「五郎と朝比奈」を描く。

・ ・ ・ ・ ・ 1815＝63歳：後妻が死去してもなく、最後まで芝居番付を描き続けて、没した。

平野千恵子「鳥居清長の生涯と芸術」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、